



千葉大学医学部ヨット部報

Vol.39 令和5年度 1月吉日

はじめに

寒さ厳しき折でございますが、OB・OGの先生方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私たち千葉大学医学部ヨット部は、多くの方々のご支援とご声援を受け、今年度も無事に東医体並びに関東医科歯科大会を終えることができました。目標であった優勝には惜しくも届かず悔しい結果となりましたが、来年度の大会に向けて気持ちを新たに、日々練習に励んでおります。

本部報は夏に行われた東医体、関東医科歯科大会の結果のご報告を中心にお届けいたします。

東医体レース結果

今年度の東医体はレース艇6艇、レースメンバー11名で挑みました。

新歓を終えた5月下旬に稲毛から江の島にヨットを運び、江の島の強風や波のあるコンディションでの練習を始めました。2か月間、毎週末江の島に通って練習を重ね、7月末からは大会期間も含め2週間の合宿を行いました。江の島での練習期間には関東470選手権に出場して大きなフリートでの経験を積んだり、6月にプロセラーの市野直毅選手、7月にオリンピックメダリストの関一人さんを練習にお招きしてコーチングをしていただいたりと、東医体本番に向けて調整を行いました。

今年度の東医体は、江の島ヨットハーバーにて以下の日程で開催されました。

- 8/2 プレレース
- 8/3 女子レース
- 8/4 東医体本戦 1日目
- 8/5 東医体本戦 2日目
- 8/6 東医体本戦 3日目



▲東医体レースメンバー

東医体の結果は以下になりました。

〈団体戦〉

- 1位 慶應義塾大学 39pt
- 2位 日本医科大学 44pt
- 3位 東北大学 44pt
- 4位 千葉大学 54pt
- 5位 順天堂大学 114pt
- 6位 横浜市立大学 140pt

〈個人戦〉

- 1位 JPN4810 田中／下村ペア（日本医科大学） 15pt
- 2位 JPN4757 田中／鈴木ペア（千葉大学） 16pt
- 3位 JPN4828 安東／森田ペア（東北大学） 17pt

〈女子レース〉

- 1位 JPN4581 竹内／鈴木ペア（千葉大学） 4pt
- 2位 JPN4305 中西／神保ペア（千葉大学） 5pt
- 3位 JPN4625 金子／丸太ペア（東北大学） 6pt



▲JPN4757 田中/鈴木



▲JPN4581 竹内/五町



▲JPN4486 原田/小山田



▲JPN4413 北村/五町



▲JPN4465 大山/松原



▲JPN4305 中西/神保

東医体本戦

今年の東医体では、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行されたことにより、昨年度は禁止されていた声を出しての応援や、OBの先生方に現地で観戦していただくことができるようになりました。昨年度2位の雪辱を果たし、今年こそは優勝をつかみ取ろうと、OBの皆様からの応援を背に東医体本番を迎えました。

東医体本戦1日目、南風軽風で波も落ち着いているコンディションの中、本戦第1レースがスタートしました。1レース目ではJPN4465とJPN4757が3位、4位フィニッシュを決め、まずまずのスタートを切ることができました。その後徐々に強く吹き始めた風に対応し出場する艇を変更するなど、レースメンバーが6艇11人と他大学より人数が多い千葉大学医学部の強みを活かしながら初日は4レースを走り切りました。中でもJPN4757は風の変化に上手く対応して安定した走り続け、初日最後のレースでは堂々の1位フィニッシュを決めるなど、4レース計11ptで個人戦暫定1位となりました。しかし、団体戦では1レース目に1位、2位フィニッシュを決めるなどした日本医科大学が36ptで1位、出場した3艇がほぼ全てのレースでシングルを取り続けた慶應義塾大学医学部が37ptで2位となり、我々千葉大学医学部は43ptで3位と、2校の背中を追う形で1日目を終えました。

2日目は江ノ島らしい安定した南風強風の中2レースが行われました。江の島までお越しいただいた多くのOBの先生方の応援に応えるべく奮闘しましたが、江ノ島を拠点として普段から強風での練習をしている他校に差を付けられてしまう結果となりました。団体戦では東北大学に抜かれ4位に、個人戦でもJPN4757が日本医科大学のJPN4810に1pt抜かれ、2位となりました。

3日目は我々が得意としている軽風予報であり、逆転を目指して出艇しました。軽風を苦手とする大学が多い中、稲毛で経験を積んできた我々は普段の練習の成果を活かし良い走りを見せましたが、1上レグの途中で風が振れたためノーレースとなり、そこから風待ちが続きました。その後、ブローが下りてきてレースが再開し、ここでも軽風に対応した好調な走りをする事ができましたが、1上マークを回っている途中で風が振れ、再びノーレースとなってしまいました。軽風で1レースでも走り、何としても逆転を果たしたいという我々の思いをよそに、定刻の為AP旗が上がり最終日は1レースも行われず終了しました。

最終結果は慶應義塾大学医学部が39ptで1位、千葉大学医学部は54ptで4位という結果になりました。



▲最終日、漁船から応援して下さるOBの先生方



▲東医体後の部員集合写真

5年間を振り返って

千葉大学医学部ヨット部令和5年度キャプテン 大山諒

ノーレースのホーンが鳴り、私たちの5年間は終わりました。最終日、1位慶應大学から4位千葉大学まで15ポイント差の間に4大学がひしめき、微風予報の中で挽回を決起し臨んだ東医体最終日は、5時間にもわたる風待ちの末、1レースも行われずに終了しました。

ハーバーに帰るヨットの中で、言葉にできない思いに叩きのめされる自分がいました。この5年間はなんだったのか。遠路はるばる来てくださった漁船のOBの先生方に対してどう顔向けすれば良いのか。

しかし、ハーバーで私たちを出迎えてくださった先生方は、とても温かい言葉をかけて静かに慰めてくださいました。東医体が終わってから幾度もこの時のことを振り返り、そしてOBの先生方の存在を力強く感じます。コーチとして残り一年、先生方に最高の景色を見せる手助けをしようと再起しました。

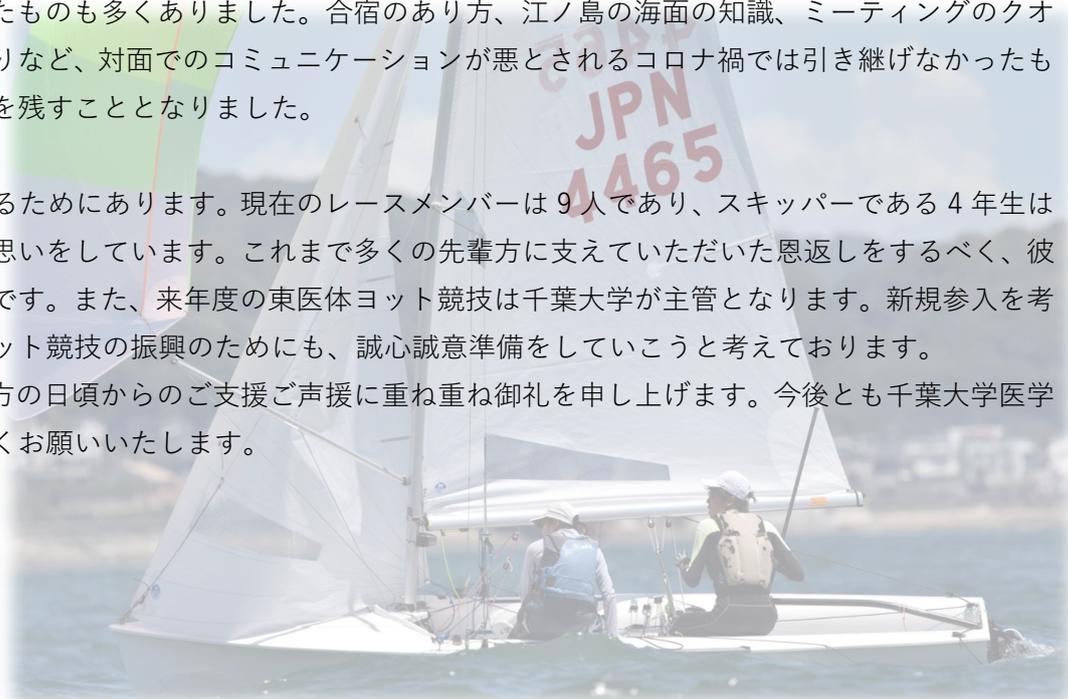
振り返ると、激動の5年間でありました。2年生になる春にコロナ感染症の流行によりヨット部としての活動が停止し、活動再開後も5類感染症へと移行するまでは常に制限と隣り合わせでした。感染対策のため対面でのミーティングが認められず、部活後にzoomで練習の振り返りをする時期や、江ノ島での合宿が認められず毎週末往復8時間の移動を強いられる時期もありました。その中で2年にわたって東医体が中止となり、自分のクルーとしての東医体も失われました。今年卒業する6年生の東医体においても、直前まで中止論が騒がれ、蓋を開けてみれば実施できたのはヨット競技を含む4競技でした。

この5年間で特に実感したことは、「伝統は伝え手がいなければ廃れる」というものです。コロナ禍で部活が制限され始めた時に、まだ低学年であった私は先輩方が必死に部活の仕組みを守ろうとする理由をあまり理解できていませんでした。その後学年が上がるにつれて、これまで自分が何も考えずに享受してきた現在のヨット部の体制は、何十年にもわたり先輩方が苦悩して作り上げたものであると実感することとなりました。

主将・キャプテンとしての2年間は、コロナで失われたものを少しでも復元しようと努めました。ヨットの整備や物品管理、OBの先生方とお会いできる各種行事など、コロナ禍後においてもこれまでの体制をできる限り維持させましたが、失われたものも多くありました。合宿のあり方、江ノ島の海面の知識、ミーティングのクオリティやプロ選手との繋がりなど、対面でのコミュニケーションが悪とされるコロナ禍では引き継げなかったものも多くあり、後輩へ課題を残すこととなりました。

残り1年は後輩に還元するためにあります。現在のレースメンバーは9人であり、スキッパーである4年生はクルーとして東医体で苦い思いをしています。これまで多くの先輩方に支えていただいた恩返しをするべく、彼らへの指導をしていく所存です。また、来年度の東医体ヨット競技は千葉大学が主管となります。新規参入を考える大学も何校もあり、ヨット競技の振興のためにも、誠心誠意準備をしていこうと考えております。

最後になりますが、先生方の日頃からのご支援ご声援に重ね重ね御礼を申し上げます。今後とも千葉大学医学部ヨット部をどうぞよろしくお願いいたします。



関東医科歯科学生ヨットレース結果

関東医科歯科大会は東医体に引き続き江の島で開催され、千葉大学医学部ヨット部からはレース艇4艇、レースメンバー9名が出場しました。

本戦初日は3レースが行われ、1位の日本医科大学と僅か2pt差で2位という結果となりました。逆転を目指し挑んだ2日目は安定しない微風の中2レースが行われ、レースメンバー一同奮闘しましたが、初日から堅実な走りで高順位をキープしていた東北大学に追いつかれ、最終成績はトップと5pt差で準優勝となりました。東医体同様、優勝杯奪還の目標は叶いませんでしたが、個人戦ではJPN4757の三浦・今田ペアが優勝を果たすなど、来年の東医体への期待が高まる結果となりました。

関東医科歯科大会の結果は以下のようになりました。

〈団体戦〉

- 1位 東北大学 31pt
- 2位 千葉大学 37pt
- 3位 日本医科大学 37pt

〈個人戦〉

- 1位 JPN4757 三浦／今田ペア (千葉大学) 13pt
- 2位 JPN4545 島田／齊藤・山崎ペア (日本医科大学) 13pt
- 3位 JPN4509 小野寺／青木ペア (東北大学) 18pt



▲医科歯科レースメンバーとサポートメンバー



▲医科歯科大会後の集合写真



▲個人戦1位

JPN4757 三浦/今田ペア



スクラブ販売のお知らせ

OBの先生方からご好評いただいております「千葉大学医学部ヨット部 オリジナルスクラブ」を今年も作製致しました。

今年はバーガンディとネイビーの2色展開で、デザインは耐久性に優れた刺繍での加工となっております。お値段は1枚6,000円とさせていただきます。サイズにつきましては下記の表をご参照ください。

ご購入を検討くださいます先生は、お手数をおかけしますが以下の連絡先に、ご希望のサイズ・色・郵送先をお知らせください。ぜひご検討のほどよろしくお願いたします。

ご連絡先：chibamedyacht2017syumu@gmail.com

サイズ表

サイズ (cm)	バスト	肩幅	袖丈	着丈
SS	96	39	18	64
S	102	42	19	67
M	108	46	20	69
L	114	49	21	72
LL	120	52	22	75
3L	128	55	22	75
4L	136	58	22	75

WH11485 バーガンディ



WH11485 ネイビー



Facebook につきまして

昨年に引き続き、千葉大学医学部ヨット部の活動報告や各種行事のお知らせなどにつきまして Facebook に掲載しております。

Facebook のアカウントをお持ちでない場合も、Web で下記 URL を検索していただくとページをご覧いただけます。アカウントをお持ちでしたら、ページトップの「いいね！」を押していただくとヨット部アカウントの最新情報をすぐにチェックしていただけるようになります。

たくさんの「いいね！」をお待ちしております！お時間のある際に、是非ご覧ください。

アカウント名：千葉大学医学部ヨット部
URL：www.facebook.com/chibamedyacht



メーリングリストにつきまして

OB の先生方に迅速にご連絡をさせていただくために、イベントの日程が決定した際のお知らせなどにメーリングリストを利用させていただいております。今年度も引き続き情報を発信してまいりますので、ぜひご活用ください。何かご不便やご質問、ご意見等ございましたら、お手数ですが3年主務 佐野までお聞かせいただけますと幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

千葉大学医学部ヨット部主務 佐野優衣

メールアドレス：chibamedyacht2017syumu@gmail.com

あとかき

今回は第39版の部報となっております。今年度の東医体は、4年ぶりにOBの先生方に江の島まで応援にお越しいただくことができました。首位奪還をかけた3日間のレースへのプレッシャーはとても大きいものでしたが、その中でも無事にレースを走り抜くことができましたのは、OBの先生方の温かい励ましのお言葉に背中を押していただいたからだと感じております。東医体期間中の多くのご支援、ご声援に心より感謝申し上げます。結果は惜しくも優勝には届かず大変悔しい思いですが、来年度の東医体では、日頃からヨット部を支えてくださっているOBの先生方に必ず良いご報告ができますよう部員一同全力を尽くしてまいりますので、今後とも温かく見守っていただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

時節柄、どうかお体に気を付けてお過ごしください。

千葉大学医学部ヨット部主務 佐野優衣